

日常行動・状況理解に基づく知識共有システムの研究開発（株式会社国際電気通信基礎技術研究所）平成16年度採択評価結果

整理 番号	評価点		総合所見
16 - 05	技術 評価	46	<p>本提案は、三つのサブテーマ、すなわち、(1) ユビキタス・センサー・ネットワーク技術による大量の行動データ蓄積、(2) 蓄積したデータからの経験知識の自動獲得、(3) 経験知識のジャストインタイム提供、より成る。各サブテーマとも意欲的、先端的で波及効果も大きい。本提案の研究代表者及び分担者は当該分野において十分な実績を有しており、医療・看護の専門家も参加しており、理想的な研究体制となっている。</p> <p>事業化について、実証実験のための医療機関との連携体制が具体的に構築されている等、妥当な事業化計画となっている。また、現時点で実際に製品事業化する企業が決定してはいないものの、提案者独自の部門（技術リエゾンセンタ）を通しての技術移転等、プロセスは十分配慮されている。一般的に医療機関向けのシステムの普及スピードは遅いが、医療ミスに対する社会の厳しい目や、安全性に対する社会の関心が高まりつつある状況を考えると、今後その普及は迅速かつ確実に進むものと思われ、かなりの市場規模が期待できる。電子カルテに関する他の機関の予測データなどを参考に、現実性の高いシナリオで売上高等を試算した結果、妥当と認められた。</p>
	事業 化 評価	36	